

船橋株式会社

日報登録作業の効率化

【導入ツール：Othello Connect】

日報登録作業の効率化

— 実証概要 —

船橋株式会社 概要・実証計画【1/2】

企業概要

企業名	船橋株式会社
所在地	愛知県名古屋市
代表者	取締役社長 舟橋昭彦
資本金	3000万円
従業員数	正社員9名、パート21名
事業内容	合羽・防水エプロンの製造・加工・販売
概要	- 大正10年に舟橋勝治が創業 - ハードな現場で働くプロのためのワークレイン、学生が安全に通学するためのスクールレインを製造・販売 - コロナ禍であった2020年、3県6社の中小企業と協力し、「トヨタ生産方式」を取り入れて、医療ガウンの生産量を100倍に！ 

取組概要

<経営課題>

粗利率の低さ



- 当社と同規模で売上が劣る同業の黒字企業の粗利率が約32%であるのに対し、当社は約24%であった
- 製品ごとに利益率が大きく異なっていた。
製造・販売すればするほど赤字になる製品が混在しているリスクがあった

<本事業での取り組み概要>



①製品ごとの正確な原価把握

- 製品別・工程別の作業実績データを体系的に取得・集計・分析し、加工賃を精緻に算出できる仕組みを構築

実証体制

責任者	管理課 課長 川野
メイン担当	生産グループ 舟橋昌樹 成瀬
サブ担当	工場長 川野

(実証の体制)

- ✓ 管理課に所属する3名で本事業に取り組んだ
- ✓ 管理課は生産グループと管理グループが分かれている
- ✓ 舟橋昌樹と成瀬は生産グループに所属

日報登録作業の効率化に向けた実証計画の概要

— 実証で利用するデジタルツールと目標設定 —

船橋株式会社 概要・実証計画【2/2】

実証で利用したデジタルツール

<デジタルツール概要>

- ・ 名称：Othello Connect（CMA株式会社）
- ・ 説明：生産現場の実績入力を簡素化し、データをリアルタイムに把握することで、工程管理や原価管理を効率化できるデジタルツール

<費用> ※参考価格。契約条件により異なる。

- ・ 初期費用：348,000円
- ・ 基本利用料：44,000円／月

<活用方法>

- ・ QRコード入力で作業実績を正確・迅速に登録。手入力による入力ミスや記入漏れを防止し、修正・確認に伴うロス時間を大幅に削減する。
- ・ 実績データ蓄積により、将来的には原価把握やボトルネック工程の特定が可能となる。

強み



目標とした主な成果



定量成果

入力ミスとムダ時間を一掃

- － 電子日報の入力時間を1日
24分／人 → 5分／人
に短縮する
- － 入力ミスを削減し、
クルーの修正依頼作業：
120分／月
管理側の入力修正作業：
180分／月
原価計算や工数算出のためのデータ修正・データ加工時間：
2,400分／月
をそれぞれ削減する



定性成果

現場がラクになり、DXが回り始める

- － 改善成果を共有し、DXへの理解と前向きな機運を醸成
- － 成果の可視化により、現場のモチベーションが向上
- － 入力作業の簡素化により、現場が本来業務に集中できる
- － 入力情報の修正や確認が不要となり、現場と生産管理者のストレスを低減

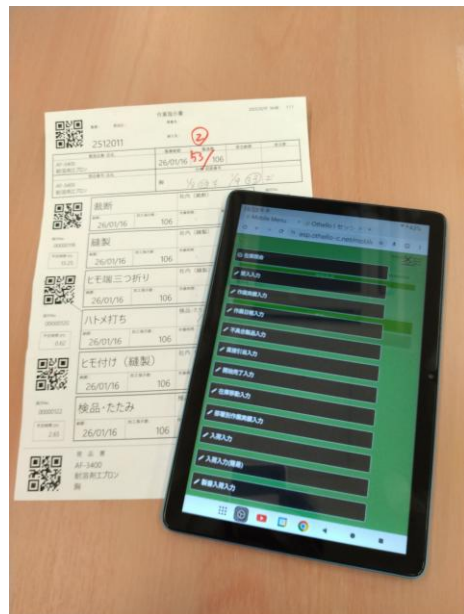
日報登録作業の効率化の取組み — Othello Connectによる具体的な取り組み内容 —

船橋株式会社 実証結果【1/5】

具体的な取り組み概要（１）

手入力をやめて、QRで正確に。日報入力をスマート化

日報登録作業について自社で作成したGoogleフォームからOthello Connectに切り替え、今まで手入力であった品番をQRコード化し入力ミスの防止を図る。



具体的な取り組み概要（２）

リアルタイムで生産状況を把握。緊急差し込み案件への対応が可能に

生産管理者が各クルーの生産状況をリアルタイムで確認できることにより、お客様からの緊急での納品依頼に対しても差し込み対応がしやすくなった。

Othello Connect 画面

	指示番号	ステータス	作業日	担	機械	製番
902	00000121	作業開始	2026/01/08 14:41	坪	総合送りミシン	2512011
903	00000121	作業中断	2026/01/08 14:58	坪	総合送りミシン	2512011
904	00000121	作業開始	2026/01/09 09:23	坪	総合送りミシン	2512011
905	00000121	作業完了	2026/01/09 09:43	坪	総合送りミシン	2512011
906	00000122	作業開始	2025/12/24 16:13	米		2512011
907	00000122	作業中断	2025/12/24 16:50	米	裁断機	2512011
908	00000122	作業開始	2025/12/25 10:23	米	裁断機	2512011
909	00000122	作業完了	2025/12/25 11:40	米	裁断機	2512011

日報登録作業の効率化の取り組みと実証結果

— 取り組み内容と実証過程で明らかになった課題 —

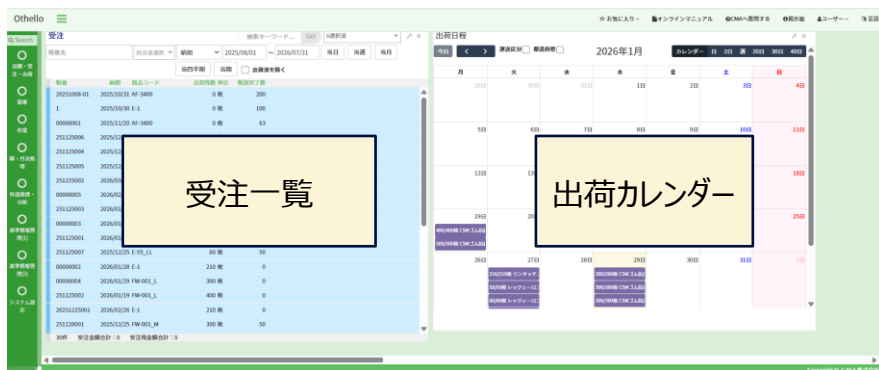
船橋株式会社 実証結果【2/5】

具体的な取り組み概要（2）

生産計画を立てやすく

出荷日程をカレンダーで表示でき、受注状況と照らし合わせることで、生産管理者が生産計画を立てやすくなった

Othello Connect 画面



実証過程で生じた課題とその対応策

1. 操作説明不足への対応

【課題】

クレーがツールの操作方法が分からず、一時的に業務をストップしてしまうことがあった

【対応策】

操作マニュアルは整備していたが、クレーへの説明や想定ケース教育が不足していた。今後は導入時の操作説明を徹底し、現場で円滑に活用できる体制を整備した。

2. 現場理解・共有体制の強化

【課題】

クレーへのツールの操作理解や情報共有が不足すると、現場での活用が進まない懸念があった。

【対応策】

ツールの質問会を定期的の実施し、質問には2～3日以内に回答する体制を整備した。また、現場リーダーへ本取組の目的を共有し、理解を得ることで前向きな協力につなげた。

デジタルツールの利用でどれだけ効果があったのか — 定量データに基づく工数削減・費用対効果の試算 —

船橋株式会社 実証結果【3/5】

取組の成果（１）定量効果

削減効果

電子日報の入力ミスの削減効果について、削減時間を金額換算して定量効果を算出

項目	担当	現状の工数 (時間/月)	削減率 (%)	削減効果 金額 (円/月)
電子日報の修正依頼 60回/月×2分/回 =120分/月	クルー	120	100%	4,000
電子日報の修正作業 60回/月×3分/回 =180分/月	管理者	180	100%	6,000
原価計算や工数算出のためのデータ修正・データ加工時間 300回/月×8分/回 =2400分/月	管理者	2,400	100%	80,000
Total		2,700		90,000

※時間単価は便宜上一律2000円/時間で算出

取組の成果（１）定量効果

費用対効果

【効果】

項目	金額(円) /月	導入後 1年での試算
削減効果 Total	90,000	1,080,000

【費用】

項目	初期費用 (円)	金額(円) /月	導入後 1年での試算
ツール利用料（初期費用）	313,600	0	313,600
ツール利用料（月額料金） ※トライアル2か月無料	0	35,000	350,000
ツール利用料（1ライセンス）		2,100	25,200
初期導入人件費（125時間）	250,000	0	250,000
必要費用 Total	563,600	37,100	938,800

導入後1年での費用対効果の試算

1,080,000円 - 938,800円 = **141,200円**

※ツール利用料は本実証事業における実績値であり、一般提供価格を示すものではありません。実際の契約価格は利用条件等により異なります。

デジタルツール導入がもたらした変化と今後の挑戦 — 定性効果とデジタル化に向けたロードマップ —

船橋株式会社 実証結果【4/5】

取組の成果（２）定性効果

デジタルツールの導入による定性効果

✖現場負担をラクに

電子日報への入力情報の修正や確認が不要となり、現場と生産管理者の身体的・心理的負担を低減できた。

🔦デジタルツール導入における知見を獲得

本実証を通じて、デジタルツール導入時に考慮すべきポイントと判断軸が明確になった。また、どのように進めていけばよいかを学ぶことが出来た。

👤DX化の機運醸成

本実証を通じて、生産管理現場においてDX化へのモチベーションが向上した。



今後の目標と課題（１）ロードマップ

ロードマップ

デジタル化実現に向けたロードマップは以下の通り

	2026年	2027年	2028年	2029年
取組概要	- DX方針の策定 - 業務および課題の可視化	- あるべき業務フロー策定 - 全社的なデータ統一	ERP要件定義	ERP正式導入
実施内容	DXの全体方針を策定し、既存システム、クラウドの課題を洗い出す	全社的な業務フローを作成し、データ統一を進める	ERP導入にあたり、ビジネス要件とシステム要件を策定する	ERPを正式導入し、販売・生産・会計・在庫を統合。Dropboxと連携し、データドリブン経営を実現

日報登録作業の効率化の先にある次の一歩 — 今後の課題と、デジタル化に取り組む企業への提言 —

船橋株式会社 実証結果【5/5】

今後の目標と課題（2）課題

今後の課題

DX推進を加速させるための基盤づくり

1. 正確性と入力スピードのトレードオフを踏まえた、**目的に応じたツール選定と評価軸の明確化**
2. 現場の負担を増やさない運用ルールや操作手順の**継続的な見直し**
3. 部門間で異なる**業務フローやデータ項目の整理・統一**
4. デジタルツール導入効果を継続的に測定・改善していく**体制の確立**
5. DX推進を担う人材・役割の明確化と、**現場を巻き込んだ推進体制づくり**



デジタル化を推進する企業へのメッセージ

1. デジタル化する目的を常に意識する

気が付くとデジタル化自体が目的になりがちです。「何のためにデジタル化をするのか？」「誰のどのような困りごとを解決するためのデジタル化なのか？」を考え続けることが大切です！

2. 現場の仕事を深く理解することが、デジタル化の第一歩

現場での手を動かす工程や作業の流れを正しく捉え、「どのように業務フローを変えたいのか？」を考えることが大切です！
あくまでデジタルツールは業務を効率化するための手段でしかありません。

3. 小さく試し、現場とともに磨き上げる

完璧を目指すより、実証・実験を積み重ねながら改善を続けることが、持続的なデジタル化に繋がります。まずは一歩踏み出してみることが大切です！